

初夏の候、皆様におかれましてはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。平素より本研究会活動に対しまして格別のご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、本年7月27日から第37回全事研兵庫大会が開催されます。ご存知のとおり、この研究大会は、第8回近畿地区公立小中学校事務研究大会兵庫大会と同心円開催となります。研究大会開催まであとわずかとなりましたが、各分科会担当支部では、準備の方もいよいよ本格化してきていることと思います。

私ども近事研は、第8分科会において調査研究部が、「学校事務の将来展望をさぐるⅢ—学校事務職員の職務と可能性—」をテーマに研究発表を行います。素晴らしい分科会にしようとして調査研究部員が一丸となって準備を進めています。また、役員一同協力して研究大会成功に向け全力で取り組んでいるところでございますが、研究大会が成功するためには、多数の参加者が必要となります。きたる研究大会には、是非ともたくさんの会員の皆様にご参加をしていただき、素晴らしい研究大会となります様ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

会長 小西 良扶

迫る 全事研兵庫大会 近畿分科会担当支部近況報告！！

近事研・調査研究部

調査研究部は、全事研兵庫大会 第8分科会（神戸市総合教育センター）において、兵庫県立大学 清原 正義教授を助言者にお迎えし、「学校事務の将来展望をさぐるⅢ—学校事務職員の職務と可能性—」をテーマに発表します。

私たちは昨年2月に、近畿の各市町村を対象とした、「学校財務」「文書取扱」に関する規程および「職務標準」についての実態調査を行いました。この結果と、教育改革の流れのなか近畿各地で見られた学校教育の変化から、学校事務の現状と課題について報告します。また、これを踏まえ、子どもや保護者・地域のニーズに応えた学校教育を行うために、学校事務職員として果たすべき説明責任とは何か、これからの学校にふさわしい組織の在り方とはどのようなものかを考察し提案します。

提案にあたっては、近畿各地からの**ビデオメール**による学校事務の現状についての紹介や、映像表現による日々の仕事を通しての問題提起など、参加者の皆様に提案内容がより伝わるような形態を、現在工夫しているところです。

討議の柱としては、

(1) 学校事務職員として果たすべき説明責任、情報公開について

(2) 学校組織の在り方と学校経営スタッフとしての事務職員の役割

の二つを予定しています。

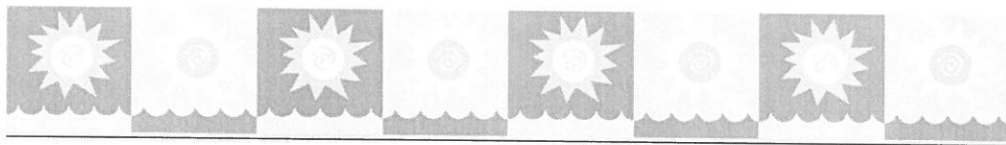
参加者の皆様の実践をもとに、事務職員としての説明責任や、これからの事務職員が果たすべき役割について討議を深め、学校事務の将来展望をともに語り合える分科会運営を目指しています。

ただいま猛練習中！！

全国大会を1ヶ月後に控え、奈良県ではスタッフ全員が一丸となって気運の高まりを図っているところです。会場の下見をし、「**緊張してきた～。**」とこぼすスタッフがいたり、「**当日の原稿考えなきゃ～。**」と頭をかかえているスタッフがいたり、それぞれが新たな緊張感を抱いているようです。

そのような中、午前中に行う**朗読劇**の練習に取りかかっているところです。「教育支援部」の強化を図り、学校を組織的に機能させるために考えられる具体的な方策を提案するために、朗読劇とプロジェクターを使っての効果で表現しようと考えています。今はシナリオにそって、朗読とプレゼンと効果音を合わせる練習に励んでいます。勤務時間中に練習時間をとるのはなかなか難しく、休日や時間外になることが多いですが、誰もくじけず、楽しみながら練習をしています。また、各自で発声練習をしたり、シナリオを読んだりスタッフ全員、今はただひたすら全国大会のことだけを考えて猛練習中です。

実行委員会の皆さんには、大変ご苦勞をおかけしています。「近畿は一つ」の合い言葉どおり、お互いに協力し合ってすばらしい大会にできればいいと願っています。お互いに健康に注意し、神戸では元気な顔でお会いしたいですね。



和歌山支部

いよいよ全事研大会ですね。ただ今分科会を担当することのプレッシャーに負けそうになっていますが、全国の皆さんに和歌山の取り組みを発信できることや、他の分科会におけるそれぞれのアプローチによる学校事務のめざす方向に迫る提案を聞かせてもらえることを、たいへん楽しみにしています。

和歌山県では、5月26・27日に開催した県大会で今回の分科会の助言者の宮前先生をお招きして講演をして頂きました。進行中の教育改革の根底にあるものについて、また、先生の持論である「カリキュラム経営への参画」についての話等をたっぷり聞かせて頂きました。学校の主人公である子ども達の「豊かな育ち」を支援していくため、楽しく安全で、能力を伸ばすのに適した学習意欲のわくよりよい教育環境づくりのためには、学校事務職員が学校で果たす役割は計り知れないことを再認識しました。子どもたちの笑顔とキラキラ輝く瞳を思い浮かべながら、それぞれの職場において私に出来ることを今日から取り組もうと、決意させてくれました。組織や自分の内にある「壁」を打ち破り一歩前への実践を始めることが学校事務のめざす方向に迫るものであると確信しました。

当日は、「学校財務」・「じむだより」・「子どもの声を生かした施設改善」について、和歌山県における取り組みを紹介しながら、子どもたちにとってユートピアである学校をよりよくするため、私たちが出来ることを皆さんと考えていきたいと思っています。

学校は未来への貯金箱。 これからも笑顔と夢をいっぱい貯金できる学校であり続けてほしいと願っています。

大阪(小)支部

《研究テーマ》 学校事務の組織化から学校改革へ

《サブテーマ》 大阪の教育の活性化をめざして！～SSO設置構想～

《研究概要》

大阪府事研では平成16年1月に、全事研兵庫大会の分科会発表に向け、研究部と府内各地から参加した方々でプロジェクト委員会を構成し、研究を行ってきました。

教育改革の動向を見据えながら、学校の教育活動を新たな時代の価値観やニーズとの調和を図り、地域の実情に応じた特色あるものとするのが求められています。そのためには、保護者・市民への周知・理解・協力・検証が得られるような、組織的な機能の整備が不可欠であると考えられます。私達は研究の中心テーマを、「組織化」ということに置き、事務職員の連携が、学校間連携・地域連携を促し、市町村の学校全域で教育効果を高めることができるように、**SSO（学校支援事務所）**の設置構想を提案します。共同実施や学校間連携の研究を進展させ、事務職員の組織化のビジョンを提案するものです。単数配置の限界を克服するとともに、新たな職務開発と市町村全域の学校経営を支援の充実を図ることを目的に、論議を深めたいと考えています。

《分科会の概要》

午前中は、プロジェクト委員会による研究発表を行います。午後の前半は共同実施の実践地域の方々にパネルディスカッション形式で論議していただき、私達の研究を検証していただきます。研究発表とパネルディスカッションを受ける形で、参加者の皆さんからたくさんのご意見をお受けしたいと考えています。

大阪(中)支部

大会までいよいよ1ヶ月となり大会発表に向けて取組んできた研究プロジェクトのメンバーは、それぞれの任務遂行に余念がありません。大会では、午前中、先ず大阪市の教育改革の概要と学校事務にかかわる変化、大阪市事研が取組んできた学校経営への参画や学校財務運営の標準化について発表します。続いて、学校運営に保護者や地域の参画が時代の要請となる中で、学校と保護者・地域が連携していくために必要な学校事務の機能とは何か、学校事務職員が果たす役割とは何かを提案します。

午後からは、「経営資源（財務・情報等）の整備に果たす役割について」「学校内の協働から学校外との協働へ」の2つを討議の柱に、午前中の提案について会場の方々からご意見やご質問をいただきながら研究討議を進めていきます。

さらに、帝京大学 佐藤晴雄先生には、学校財務や学校と地域との連携などについて、全国的な状況も踏まえ、ご助言やご指導いただきながら討議をより深めていきたいと思っています。

先日、第4分科会の会場「芦屋ルナ・ホール」に行ってきました。芦屋川のほとりにたたずむどっしりとした会場は雨ではありませんでしたが、見慣れない大阪からの客を静かに迎え入れてくれました。7月の大会では、壁面をつたうツタも青々と力強い様相で私たちを迎え、励ましてくれることでしょうか。

全国大会にふさわしい分科会となるよう、最後までベストを尽くします。**当日は「芦屋ルナ・ホール」で熱い一日を一緒に過ごしましょう。**

滋賀支部

学校事務の役割・機能も大きく変わる必要性に迫られています。そこで、児童生徒や保護者の願いに応えられるためにも、地域に開かれた学校事務職員として果たすべき役割や、学校全体としての教育力を高めるために、学校事務組織の確立について考え、教育を支えられる学校事務職員をめざそうと考えました。

その中で、滋賀支部では、テーマを設定するにあたって「小学校・中学校設置基準」に自己評価や情報の積極的な提供に関する規定が設けられたこと、また新たな公務員制度では新人事制度の構築が進められていることから、評価について注目しました。

そこで、学校経営に参画するために必要な力量や専門性について改めて探り、自分はどうありたいかという目標となる観点が必要ではないかと考えました。事務職員がそれぞれの思いで

学校事務に取り組むだけでなく、これからの学校事務のありかたを追求しながら、事務の標準化や事務組織の確立をめざして取り組み、働きかけていくことが必要です。現状維持の意識から一歩踏み出し、目的意識をもち、理想像を描くことができるようにと、意識改革を進める手立ての一つとして、学校事務の評価を取り上げました。

事務職員が経営スタッフとして参画していくために必要とされる資質能力の向上や事務部門の強化につながることを願って2種類の観点一覧表を作成しました。

分科会では豪華キャスト?による「寸劇」や滋賀支部の得意?の「掛け合い」で分科会を進めていきます。また、グループ討議では、提案者、助言者、参加者と共に作り上げる分科会を運営します。**ご期待ください。**

京都支部

震災復興10年目、元気を取り戻した兵庫で、京都市立学校事務研究会が、全国大会第6分科会を担当することになり責任を感じています。分科会当日まで、後50日程となり、いよいよ最後の仕上げを迎えています。と書ければいいのですが・・・先日、会場の下見を終え、分科会当日の舞台設営等のイメージがやっと膨らんできたところです。取組みのスタートの遅さが、京都の特徴ですが、「本番には、間に合わせる」の合言葉にお尻を叩き合いながら、楽しんで取り組んでいます。以下、**一言コメント**

コーディネーター・・・

パネルディスカッションを通し会場の方に「預り金（私費・学校徴収金）とは」について考える場になればと思います。パネリストのみなさまの力を借り、より良い方向性を探り（保護者負担の軽減、公費との関係、保護者等への説明責任、校内体制の構築、事務職員自身の研鑽等）、やりがいを見いだす仕事と捉え、事務職員が意欲を持って関わることに繋がればと思います。

総合司会者・・・

6月10日は時の記念日、「時は決して呼び返せない」「自分の立場を全うしておれば迷いや不満は起こらない」と記してあります。分科会は、司会を精一杯がんばりたいと思います。

提案者・・・

教育活動と予算を連携させ、子どもたちの豊かな育ちを支援する学校事務職員をみなさんとともに語る提案を心がけます。伝統を重んじつつも、常に新しいものを吸収し、変革していく京都らしい斬新な提案ができればと考えています。だが、本音は早くビール片手に「ほっこり」したい。

兵庫支部

「学校経営への参画をめざして」

— 教育環境整備と学校予算から考える —

実行委員会研究部は、初めての分科会発表という大舞台に向け、4人の発表者を中心に発表原稿の手直しやプレゼンを入れてのリハーサル、助言者との打ち合わせ等精力的な取り組みを重ねています。

様々な制度改革が相次ぐ一方で、地域や保護者、児童・生徒のニーズは多様化しています。学校が地域の信頼に応え、高い評価を得られる教育活動を推進するため、学校長には「具体的な学校経営計画の策定」と「強いリーダーシップ」が求められています。私たち学校事務職員は、学校経営組織の重要な一員として機能するため、学校で唯一の行政職員として、総合的な視点に立った企画と提言、調整能力が不可欠であり、それぞれの学校に応じた教育活動を支援するための適切な判断能力と質の高い実務実践力が求められています。

私たちが実際に携わっている学校予算、教育環境整備、という学校経営の重要な領域に新たな視点をあて、事務職員が果たすべき役割や権限と責任の問題を考え、外部評価にも耐えうる

「**学校経営参画へのアプローチ**」に迫りたいと思っています。

是非、第7分科会へご参加下さり、ご意見・ご指導を頂きますようお願い致します。